

2008年度 第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

- 開催日時：2008年7月8日（火） 午後7時15分～9時00分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重
中曽根聡、柳澤正樹、山下恭子、渡辺美恵<以上9名、敬称略、あいうえお順>
- 欠席委員：安岡厚子<以上1名、敬称略>
- 事務局：丸木 敦（地域福祉課長）、中澤一郎（主事）、今林朝香（コーディネーター）
長山清美（コーディネーター） 篠原保之（係長）

- 配布資料
- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（6月）
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告（6月）
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（7月）
- 資料 4：2008年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 5：西東京ボランティア・市民活動センターアクションプラン（案）
- 資料別紙：2008年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開会の挨拶

委員長：定刻なので始めます。私事ですが、先月末を持って前職を離れ、7月1日付で日本NPOセンター事務局次長の職に就きましたのでご報告します。本日も、協議事項はアクションプランの検討のみのようなので、しっかり話をしていきたいと思います。早速、報告事項から始めてください。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

- ① 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（6月）
業務体制の関係でにこにこでの相談業務回数が少ないことなど、事務局より報告。
- ② コーディネート状況等月次報告(6月)
依頼の内容の紹介と新規登録者の説明、報告書の数値の部分が集計できていないところがあるため、修正することを事務局より報告。
- ③ 西東京ボランティア・市民活動センター予定表(7月)
事務局より報告。

質問はなく、資料の修正点等を確認して報告を終える。

(2).西東京市協働推進検討委員会報告

委員長より、6月26日(木)18:30 市役所1階会議室で行われた西東京市協働推進検討委員会の報告が行われる。

委員長：今回が3回目の開催。第2回は、座長の提案で、近隣の先進地区（三鷹、調布、武蔵野）の市民活動センターを視察に行った。（6月18日）。施設の大きさ、運営母体、機能面、などを見学されたとのこと。3回目の委員会では、機能面を中心にワークショップ形式で思いつきを出していったが、アドボカシー機能や社会的な課題に対する調査・研究などについては提案した。その他には、これといって目新しいものは出されていないと思う。今後は、8月6日に第4回、8月21日に第5回の委員会が開催される予定。第4回では第3回のワークをまとめたものを資料にして検討に入る。話の内容は、ハード面以外の機能をどこまで盛り込むか、運営主体、評価方法などになると思う。資料としては、市内にある同様の組織の紹介、協働事業の事例などがまとめられていたものが事務局より出されていた。傍聴した職員は感想がありますか。

事務局：意見出しが終わったので、これから協議かなといった感じでした。

委員長：取りまとめたものを元に、市民との意見交換を行い、9月下旬から10月上旬にまとめの予定。全6回の予定なので後3回となる。（市民との意見交換会は除く）。会の終わりに傍聴者から発言の要望があり、座長が認めて発言が許された。その発言では、西東京ボランティア・市民活動センターとの住み分けや公設民営の場合自主財源を持つての自立した運営も考えるべきでずっと予算的に丸抱えで良いのかといった趣旨の発言があった。

委員：あと3回の会議で集約できそうですか。

委員長：アイデア発散までしか進んではない。集約は今のところしていないのでなんとも言えないが、市民との意見交換までには報告書素案ができることになっている。

委員：先進市を見てこられたとのことだが、今までのあり方プラス固有のものという視点か、それとも、最低機能を備えてやればという視点か、どちらなのか。

委員長：後者の感が強いかもしれない。運営については、市民が運営委員会を構成しているところがあったり、スローガンとして「笑顔とおもてなしがもっとう」という職員の資質を挙げているところがあったり特色はあった。

委員：アドボカシー機能・調査研究など、行政ではできない民間ならではの協働というものが機能として入れてほしい。一度できてしまっ固定化されてしまっとなかなか展開しない。報告書に一文入れてもらいたい。

委員長：要は人。ソーシャルワークができる人の配置という点も次回の議論になると思う。各委員も経験豊富なので、様々な意見が毎回出てくる。期待をしたい。ぜひ、傍聴に来ていただきたい。

委員長：福祉活動計画の委員会からの報告はありますか。

委員：7月29日に策定委員会で各事業の見学ツアーを行う予定。委員会ではニーズを集めることを議論している。各委員が自分自身の西東京市での生活で感じていることをフリーに話してみた。市の福祉計画と社協の活動計画を良く見て考えていきたい。

委員長：厚労省の地域福祉のあり方検討会の報告書が出されている。地域福祉活動計画、社会福祉協議会、民生委員などの切り口で、思い切った改革の声も意見として出ているので注目していきたい。

質疑を終了し、報告を終える。

2. 審 議 事 項

(1).2008 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

○2008 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。
訂正・質疑はなく、2008 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)を(確定稿)とすることを承認する。

3. 協 議 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター 3 ヶ年アクションプランについて

事務局より、今回提示の資料 5 について説明を行う。委員からの質問、意見をいただく。
以下、質問内容、回答、意見、問題提起について、概略を表記する。

事務局：前回の資料では、強化プランにあわせた表記になっていたが、今回は取り組む事項にあわせて組み立て方も変えていった。

委 員：強化プランを発展させていく方向なのか。

事務局：そう考えている。地域福祉活動計画を作っていくうえでも、今回の柱立てを唱っていきたい。

委 員：協働センターとの絡みはどう考えているか。

事務局：担っていくことを考えるとこの機能は落とせないというものは入れたつもりです。

委員長：前回、8 月までにまとめていくとの話だったが、9 月に決定していけば良いのか。

事務局：来年度の事業計画の審議には、まとめたものを考えていきたい。

(意識調査について)

委 員：意思を持った調査でないと無意味。問題意識を持って取り組むべき。

同じようなアンケートは幾つも依頼されるが、アドボカシー機能と組み合わせて、目的を明確にして実施してほしい。

(弱点の見直しについて)

委 員：あえて弱みを見せることはないと思う。見直し・課題の整理では、弱い・足りないの表記はふさわしくない。

(人材バンクについて)

委 員：福祉に限らず、西東京には似たようなバンクが「援農」「公民館」などに登録制度として存在する。そちらは確認しているのか。

事務局：市の社会教育、援農ボラ、多摩六都科学館など、ある程度は把握している。

委 員：専門委員会について、もう少し詳しく話してほしい。

事務局：人材バンクを設置するにあたり、現在の登録制度との関係を整理しながらシステムの構築のために 1 年限定で設置を考えている。同時平行したいと考えている。

委 員：メンバーはどう考えているか。

事務局：災害時のシステム作り専門委員会と同じように市民の協力を得たいと考えている。

委 員：人材バンクに登録して活動の依頼を待っている人とコミュニティビジネスに向かう人との

は、考え方にギャップがあると思う。09・10年に登録した人たちが活動場所を開拓してもらえそうな動きを進めるべきではないか。

委員：ぜひ西東京スタイルというものを作り上げてほしい。幾つもの団体を作っていくことよりも1つの団体をあたためていって、それを充実させていくことで内容の濃いものをつくっていくということも1つの考えではないか。スキル、経験は持ち合わせている。既存の団体への加入が難しい場合もある。ボランティアがつくる団体の支援を考えても良いのではないか。団体ごとに相互に乗り入れるものもあると思う。つながる部分と共有する部分を示してもらいたい。

(市民参画)

委員長：ニーズ調査についてはしっかりやってほしい。どこに市民が参画するのか、事業展開をしっかり示してほしい。また、市民から出る企画なので、何をやるかは蓋を開けてみないとわからないはず。今から何をやるかは決めないで良いと思う。

委員：市民の声を聞きたいのであれば、始めから市民を入れた講座をやってみてはどうか。

委員：アンケートは100%は集まらないもの。市民と集めてみても良い。

委員：歳末助け合い募金からは、公費助成をしている活動もある。特色を出して企画をしてほしい。例えば、プレゼンテーションを華々しく行うとか、審査員に子どもを入れるとか、センターを盛り上げる例を幾つも出してほしい。

委員長：様々な差別化を図ると良い。既存のスキームに加え、個々の企画に団体が飛びつくつながりをどう構成するかが鍵。

(大学・企業)

委員：連携の結果、ボラセンは何を望んでいるのか。体系化するとどうなるのか。紹介されることで誰が楽しくなるのか。どんな価値が生まれるのか。どこもはっきりしないし、表記の仕方は他力本願に見えてしょうがない。

委員：大学と企業を分けて表記をしたほうが良い。

委員：今、学生にとって何が求められているのか把握ができていない。学生の力を得て何をするのか。示してほしい。

委員：ボラセンからは、こういったことができるよとアピールをしてほしい。どういった学生に来てほしいのかを出してほしい。お金にならないと関心が低いことも事実としてあるので。

委員：学生に対するキャリア教育の視点が示されていない。09年から10年、11年のつながりもわかりづらい。

委員：企業と連携することで、何かしら成果が結び付けられるように表記していく必要がある。取組みをいつからやるのかも示してほしい。

委員：大学生への問いかけは、ここにある大学とあわせて、ここに住んでいる大学生へのアプローチも必要。

委員：高校生と大学生を分けるのではなく、ユースという視点で一緒にやることも検討したほうが良い。

委員：地場産業との結びつきを検討してほしい。大企業に対しては、対象をどこにするか。また、CSRレポートをきっちり読んでからアプローチしないといけない。地域にどのように根ざしているか責任のある人から伺うことも必要ではないか。

(アドボカシー機能)

委員：ボラセンが社会に対してどういう意見をしていくのかが問われてくる。このような機能であると出していないといけない。

事務局：部内で議論していきたい。

委員長：防災については、防災意識を高めることにつながった。センターがやるのであれば、事業化し市と施策化していくべきだと思う。

委員長：審議事項についてはメールベースで良いので意見をいただくようにしてほしい。強化プランからの進化として受け止め、中間支援組織として機能について目標に盛り込み、各項目と強化プランとのつながりについても示してほしい。

次回会議までに、事務局内において再検討を行い、9月の運営委員会で最終案を提出することとする。

以上をもって、今回の協議事項の話し合いを終える。

3. そ の 他

(1).次回運営委員会開催日程について

次回の運営委員会の確認を行う。

日時 9月9日（火）19:15～21:00

会場：田無総合福祉センター 第3会議室

以上をもって、2008年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。